

# 清水次世代型エネルギー供給プラットフォーム事業

○応募事業：自立・分散エネ【設備等導入】

○事業実施地：静岡県静岡市清水区袖師地区

○代表事業者：ENEOS株式会社

○共同実施者：静岡市

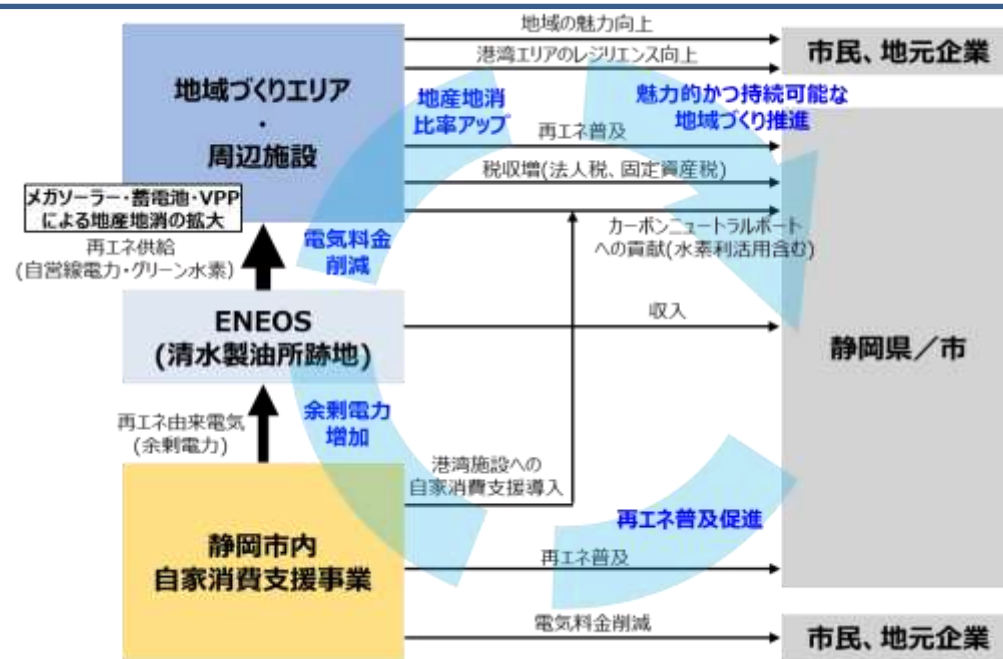
## ○地域課題

現状、静岡市は多くのエネルギー資源を域外の資源に依存しているが、静岡市域の太陽光発電のポテンシャル（1,056千kW）に対し、およそ1割（134千kW）しか導入が進んでいない。

## ○本事業を活用した地域課題の解決方策

本事業を静岡市域の先導モデルとすることにより、域外へのエネルギー代金の流出抑制及び化石燃料への依存度低減につなげていく。また、再生可能エネルギー由来電力の地産地消を進めることで、市域内の資金を循環させつつ、これらの取組で得られた収益を再投資に繋げていくことで、地域経済の活性化を図りながら脱炭素の取組を拡大し地域循環共生圏の構築を目指す。

## ○目指す地域循環共生圏のイメージ



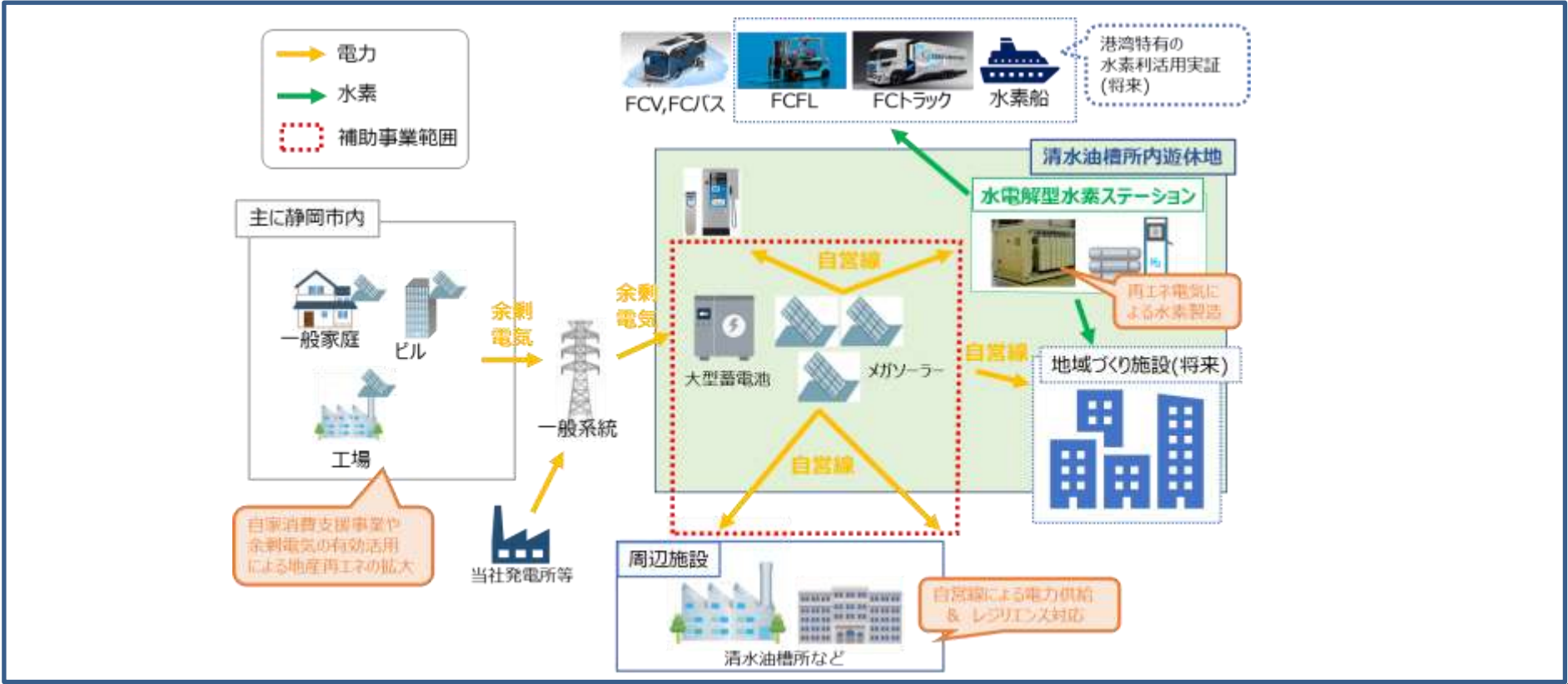
# ○事業概要

静岡市清水区袖師地区にある事業実施者の大規模な遊休地（清水油槽所内遊休地）とその周辺地域において、太陽光発電、大型蓄電池及び自営線を活用した再生可能エネルギーの地産地消による自立型エネルギーの供給体制を整備するとともに、その再生可能エネルギーの利用者を遊休地に呼び込むことにより、地域の脱炭素化および活性化に貢献する。

静岡市の地域資源である太陽光発電は導入しやすい一方で、余剰電力の取扱いについて課題も多く、地域によっては余剰電力が多すぎると出力抑制がかかり資源を最大限活用できない事象も発生している。そこで、エネルギーマネジメントシステム（CEMS）と大型蓄電池の活用などにより静岡市域で発電された太陽光の余剰電力を当該遊休地とその周辺地域に供給し、地域資源を最大限有効活用していく。

また、当該遊休地とその周辺地域で消費しきれない余剰電力は、EVへの供給や水電解によりグリーン水素を製造しFCVへ供給するなど、電力消費だけでなくモビリティにも展開していくことでグリーンな取組を拡充させていく。これらの取組を収益性のあるビジネスモデルとして確立することができれば、持続可能な事業となるだけでなく、事業を水平展開させていくことで、より多くの地域循環共生圏の構築に繋げていくことが可能となる。

# ○導入予定の設備等のイメージ



# ○事業の実施体制

## 次世代型エネルギーの推進

代表事業者  
ENEOS(株)

- ・事業の企画、計画立案
- ・設備計画の策定
- ・設備の施工・管理
- ・資金調達 など

連携・協力※

共同事業者  
静岡市

静岡県

- ・自営線による電力供給先の検討への協力
- ・地域の脱炭素化や水素エネルギーの利活用推進に向けた計画・施策の検討
- ・脱炭素先行地域の取組推進(静岡市)
- ・許認可に関する指導・助言 など

## 魅力的かつ持続可能な地域づくり

清水みなとまちづくり  
公民連携協議会

- ・清水駅東口・江尻地区  
ガイドプラン策定
- ・市民ニーズ調査  
など

連携・協力※

静岡県

静岡市

ENEOS(株)

親和性  
・  
相乗効果

※静岡県とは2020年7月、静岡市とは2021年7月に次世代型エネルギーの推進と地域づくりに係る基本合意書を締結